
ポポロクロイス戦記 悪の心を持つ者

ガミガミマムル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポポロクロイス戦記 悪の心を持つ者

【Nコード】

N8516D

【作者名】

ガミガミマムル

【あらすじ】

この世界は犯罪をする者が多い世界。もともとは商売が盛んな平和な世界だったのだが、悪の組織兼組合・ハイディフ。そのメンバーが世界を腐らす行為をした。そのため、人々は生活に苦しみ、犯罪もするようになる。すると商売する者達はみな、犯罪に巻き込まれ、今では世界の9割は犯罪者となった。

プロローグ（前書き）

この小説は途中打ち切りをしました。

理由としては残酷でもう、書きたくないと判断しました。

描写などの理由から比較的に少ないと思いました。

そのため、途中までながらも読んでくれる人は大歓迎します。

プロローグ

この世界には犯罪が集まっていた。

犯罪者の世界。権力を持つ者は他の人を雇い、人を殺す、魔法を使える者は強力な魔法で人を殺す、この世界の頂点を行くものは特に人を殺している

魔王やその手下共には強力なロボットを持ち、人を焼き殺し、建物を壊す。

この世界では沢山の資源が取れるが、それで武器を大量生産して、人殺しに使われている史上最悪な世界

犯罪者A「聖なる力よ、相手の力を弱めろ・・・ホーリーバースト
！！！！」

竜頭蛇尾「蒼き竜よ、その力を解放し、相手を殺せ！！ドラゴン
シュート」

ホーリーバーストとドラゴンシュート。二つの必殺技により、一人の人間が息絶えた。

竜頭蛇尾「ククク、我らブルースネークは世界を支配する。アイツ
らには負けない」

らっつき「竜頭蛇尾か、かなりの強敵のようだね。我ら探偵は人殺しを支配し、犯人を作り出す。秘密も沢山持ち、世界を破壊する。」

酔いだれ「息子のひろくんを復活させる為にも、資金を稼いで人を倒してやる。」

この酔いだれの人はひろくんを2歳の時、交通事故で死んでしまつたらしく、人々を殺して、息子を復活させるのが目的。ひろくんは今、ロボットになっており、復活の為には1億円以上の資金や何人もの人の魂から作る賢者の石が必要だ

森の神「世界の支配者である魔王さん、酔いだれさん。私はリーダーとなる」

フローネルと呼ばれる森の神、それも悪の心を持つ者だった。世界を支配すべく、いた

世界には影の薄い物、悪の心を持たない物もいるが、それらは数が少ない

この世界はもはや、バトルロワイヤルとかした。

そこに3人の者が送り込まれた。

一人目はカラクロイド。実は自分自身もロボットである

二人目は柊つかさ。棘を持つ花（柊）を名前に刻んでいる少女。ボングレの血を引いており、死ぬ気の炎を使用できるらしい

三人目は高良みゆき。かなりの知識を持つ少女。

その3人はここで生き延び、世界の悪たちを倒し、救う事ができるのか楽しみだ…

第1章 あすりお&彼方の襲撃。ミッドガル・イクスの祝福

つかさ「ここはどこなんですか」

カラクロイド「わからない」

つかさ、みゆき、カラクロイドはこの謎の世界に来てしまった。
其処は何処かわからない

みゆき「ココはパレルワールドみたいですね。」

そう、つかさ達のいたらしき すたの世界ではない、別の世界だ

彼方「貴方は私たちに殺されなさい」

あすりお「ロボットバトルだぜっ！！！」

そこに現れた者、それは悪の団体8つの中の初心者館でも特に優秀な二人

あすりおは初心者館のリーダーをしており、優しいところもある
がお馬鹿。

彼方は爆発的な力を持つ事が出来るのだが、ロボットはスピードが
とても低く、相手の連続攻撃でロボは破損し、すぐに壊れてしまう
のが難点

簡単に言えば二人とも弱点がある弱者と言うわけだ…

ミッドガル・イクス「つかさ、みゆき、カラクロイド、お前らには
世界でも最強の力を持つロボット。【デフロボ】を託そう」

そこに現れたのはクラウド、ティファ、バレット、エアリス、セフィロスなどを好きな男。ミッドガル・イクス。FF7関係の人である。

つかさにはエアリング・ルナ。スピードと魔力が高いミッドガル・イクスの最強のデフロボ

みゆきにはパワーリング・ジルバ。スピードがやや高く、攻撃力が高い。防御、HPがやや低いのが弱点

カラクロイドには超越の神々・ピエトロキングと言う世界でも昔に存在していたデフロボ。バランス取れており、攻撃力中心で素早さは低い。

しかし、能力的にはめちやくちや弱いといわざるを得ない。

あすりお「ゴタクはいいから、いでよ、ハナ姉!!!」

彼方「てめえらはオレが殺す!!! つんつんでれよ、てめえらを殺せ」

あすりおはハナ姉、^{デフロボ}彼方はつんつんでれ（デフロボ）を召喚した。

この世界ではデフロボのほぼ全ては悪に支配されてしまった者だった。

* * *

月南の店「ぐっ」

そこには月南の店と呼ばれる店があった。

その店は今、TM、^{トレジャーマスター}神風、サードウェイ、ブルースネークに襲われてしまった。

影の薄いかば屋の店長のかばちゃん、神風はシュウなき、今、新しい店長を迎えており、ブルースネークはプロローグに登場した竜頭蛇尾と呼ばれる人。

そして、サードウェイは世界を破滅に追い込もうとしているアイドル・オリザ、ミラクル族と鏡の力を持つ最強の者・玉石の八索、そしてゼロなど沢山の人間がいた。

月南の店は悪の心を持たない唯一の店員。店がつぶれるまで世界を救う為に戦う。勇者である。

第1章 あすりお&彼方の襲撃。ミッドガル・イクスの祝福（後書き）

つかさ、みゆき、カラクロイドはどうなるんでしょうか。

悪の団体はあと何があるんでしょう。

第2章 百花繚乱。3つに割れた団体（前書き）

百花繚乱が登場

第2章 百花繚乱。3つに割れた団体

百花繚乱。悪の心を持つ前の彼方が開いた団体。

そこは有名となり、世界でも特に上の団体となった。

だが、彼方は力を失い、月南の店がリーダーとなった。

だが、彼方、その他の犯罪者、月南の店の3つに割れてしまったギルドでもある

彼方は初心者の館の副団体長となり、あすりおと世界を支配し、破壊する

犯罪者は魔法や攻撃、伝説の武器で相手を殺す為に存在

月南の店は世界を破壊する奴や人を殺す者から世界を救う心を持つ数少ない人間

デフロボを持つ者の中ではそんなに強くないのだが、正義の心を持ち、デフロボを持つ者はコイツぐらいと言うわけだ。

ふりーだーむ「近くの山の地図、近くの鉱山の地図、これらで強力な武器を手に入れて来い」

百花繚乱の山師「わかった。とってきた」

悪の犯罪者の武器屋、防具屋「加工してやる。犯罪の為に武器、防具を」

ふりーだーむは百花繚乱のピエトロ型デフロボを持つ悪。老舗らしいが、地図を売ることでしか出来ない。

山師は雑魚キャラ。

この世界はやはり、犯罪しか起こらない。

話は元に戻そう、月南の店は戦い続ける。

つかさ「ルナさん、雑魚を始末してください」

みゆき「ジルバさん、攻撃です」

カラクロイド「ピエトロ、強力なガトリング攻撃！！！！」

あすりお＆彼方「ギャあああああああああああああああ
退却ダー。私たちはどーせ雑魚キャラより少しマシ程度ですよ」

あすりおと彼方は逃げていった。

* * *

番外編

彼方「雪白雑貨店へ来る者募集中」

彼方以外の全世界の人「テメエ程度の店行く人なんていねえよ！！
」

第3章 ハイディフの力

森の王「みなさんの強さを測ろうーーーーー」

この犯罪のあふれる世界、犯罪の原因はこのハイディフの物であるが、そのハイディフは自分の団体の中ではおチャラ家だった。

フローネルの森（森の王）はみんなの実力を見る事にした

魔王「私は魔王のマオ。私は2つのデフロボを持っている」

魔王には2人のデフロボを持つ

1つはエリザベス。ピエトロ型のロボ。実力はバランス型。世界でも有名なハイディフの一番大きい規模を持つ

2つ目はゴッドルーラー。攻撃999、防御999、魔力999、魔防999、スピード999、HP999の最強のロボット。

魔王はエリザベス、ゴッドルーラー、ガミガミ魔王城、そして世界の奥深くにある伝説のデフロボを持ち、宇宙規模で犯罪だけの廃世界を作るのが目的

酔いだれ「オレの出番は……」

森の王「無い、新米」

アルファ「そうだ、そうだ。新米の癖にハイディフで3番目に目立っている。元百花繚乱だった雑魚だからな。コイツ」

魔王「酔いだれはクビに近いぜ。相棒……！」

森の王「冴えてきたぜ。」

百花繚乱の雑魚「ハイディフを殺しに来たぜ……！」

酔いだれ「オレが追いはらおう」

10分後、追い払った。

魔王「10分掛からないと無理とはな」

アルファ「何故、あつしの登場はすくねえんだ。」

魔王「地味だからさ」

森の王「いや、アルファはまだ登場できている。5人ぐらいもつと地味な奴が居る。」

アルファ「でも最低な酔いだれは普通に」

魔王「存在感あるから仕方ない」

森の王「人気アイドル・オリザのレコード買いにゴドリフへいくぞ……！」

鉦山の町、ゴドリフへ向かう……

そこでニコニコ・ロビーンにであった。

ロビーン「シエンフルーレ」

森の王「デフロボ、この女をやれ!!」

森の王のデフロボ「御意、了解しました」

ロビン死亡 残り人類200人

第4章 デスノート

みずな蓮「クリシユの本で新世界の神になる！！！」

みずな蓮と言う者がいた。本で世界を犯罪するのが目的だ。デスノートを作り出し、貿易で売る

デスノートを買う物はいた…

キルア「ほしいぜ相棒」

G l o o m s「いいですな。デスノート」

みずな蓮はサードウェイに誇れる世界最強の本屋だったが、ハイデーフと呼ばれる団体の所為で株価が下落、みずな蓮は資金がなくなり、全ての残った力で開発した物。それがデスノート

デスノートには誰も考え付かなかった最強の力を持っている。それは40秒で人を殺せる効果。

この世界で人を殺す事が一番重要だ。

その中でデスノートの存在は最強の存在

だが、デスノートはサードウェイ加入者のみ買う事ができるようにみずな蓮は設定する

流通しすぎないように、仲間用の武器だ。

葉那「ミッドガル・ルクスを殺そうつと」

40秒後、死ななかった。

神の手「名前は偽名か。ミッドガル・ルクスは一体誰なんだ」

ミッドガル・ルクス「私はグレイト・ウォンだ、神を超えたぞ。世界は神には狭すぎる」

其処に現れた、ミッドガル・ルクス。爆弾で神の手に攻撃。強度のあるデスノートで防御

葉那「デスノートにグレイト・ウォン」

四拾秒後

ミッドガル・ルクス「グレイト・ウォンも偽名だ。お前らの実家は燃えてもらった。ではさらばだ。」

虹の月「ミッドガル・ルクス！！！！てめえを殺す」

ミッドガル・ルクス「マジカルロッド50本投げ！！！！！！！！」

虹の月「マジカルリング50個で守るよ！！！！」

ミッドガル・ルクス「じゃあ、バスターロッド200本投げ」

虹の月「ぐっ、引くか、デフロボ使うか！！！！引こっ」

ミッドガル・ルクス「デスノート 虹の月 5分後、自分のデフロ

ボにのしかかれ、死亡」

虹の月はミストスクリーンの効果でデスノートの効果を1度消滅させた。

そのため、虹の月は死ななかった。

第5章 カラクロイドの最期

197人の人がいたが、アリソンと呼ばれる店を開いていた者はハイディフのアルファに殺された。その後の出来事

カラクロイド「デフロボが破壊された」

アルファ「俺にか…糧^{かて}ねえーよ」

私たちはアルファと言う少年にであった。コイツはあのハイディフの者だった…

つかさ「バハムート召喚!!!!!!!!!!!!!!メガフレアッ！」

私はメガフレアで応戦したが、デフロボほど強くなく、効果はほとんど無い

この世界では強力な召喚獣よりもデフロボがめちゃくちゃ優遇されているようで、

召喚獣はそんなに強くないようだ。

アルファ「デスノート投げ!!!!!!!!!!」

アルファはサードウェイからデスノートを奪っていた。

サードウェイのデスノートはハイディフにも回っていたのだ。一番の老舗ギルドだけの事がある

つかさのバハムートはデスノートの邪悪な力で死に立った。

カラクロイド「俺がデフロボ王になる。お前は俺が破壊する!!!!!!」

カラクロイドはまず、螺旋丸で相手のデフロボに霍乱し、かめはめ波を放つ

その後、えんぶきりかぜ円舞霧風で切り裂き、つかさは死ぬ気の炎でイフリートを強くしてアルファのデフロボにぶつける。

その威力はかなりの高さを誇った。

みゆき「バブルクロー！」

バブルクローとはサガシリーズに出てくる水系の魔法だ。威力は無意味だった。

カラクロイド「貴様は噛み殺すつてばよ！！！！ハリケーンボム！！！！」

ダイナマイトでアルファのロボに攻撃
だが、そんなに効いていない。

カラクロイド「北斗真剣オラオラのpegasus。この実力は最強の正解となり、敵を滅ぼせ。」

ハリケーンボムは攪乱の為に使ったもの。真の目的はあの技を使う為のものだった。

カラクロイドは連続攻撃をアルファに与える。そしてカラクロイドは大爆発した

「アルファ・ギア・セカンドサードラスト!!!!!!!!!!!!!!」

カラクロイド「さらばだ……高良……そして柊つかさ……」

アルファとカラクロイドは消え去った。良い話だった…

残り人類195人（カラクロイドも人類扱い）

だが、ルクスが居なくなっただという事はこの世界が衰退していくことを意味する

世界は衰退していった。

魔王さんは世界の全国の人を集めて全面戦争をすることにした
その戦争こそ、この世界の破滅のカウントダウンである！！！！！！

ルクス「俺は悪の敵を倒すための3つの手ごまを用意した。2体の
ダークドレアム、そしてスライムだ。1160階まで洞窟の奥深く
を降り、手に入れた貴重なモンスター達。」

つかさ「スライムってドラクエの弱い奴じゃん？」

みゆき「ルクスさんがいればきっと大丈夫です。」

世界は神風が多くの人間を持っていた……
その頃、ギルド、神風の話しよう

第6章 ミッドガル・ルクスVS柊つかさ（後書き）

<http://www.noel-sv.com/monster-s1.813/monster.cgi>

で私はプレイしていますがまだ地下3階までしかいけていません（弱

第7章 神風会議 みさお、みなみ、パトリシア登場（前書き）

運命でも聞きたいッス

パトリシアやみなみ、みさおなどが登場します。

第7章 神風会議 みさお、みなみ、パトリシア登場

ファフ「神風・青空の王のファフだ」

Kのバケツ「青空の王、良くぞ来た。俺様は神風でも特に上の店で俺の輸出力は最強クラスだ」

こいつはKのバケツ。通称バケツさんだ。

貿易で沢山の人を助けていたが実力もあり、神風の反乱でも特に指導力のある一人だ

リヨシユン「私は風の使い。リヨシユン。強力な風の魔法で必ず人々を殺してやる」

白鯨「ハハハハ、粉碎！玉碎！！大喝采！！！！」

こいつは白鯨。かなりのふはははー スゴいぞー！カッコいいぞー！とかすごい言葉をしゃべる人。

それはそれとして、神風以外のギルドはほとんどが7名〜9名。神風は数が多くなった上に異世界人が3人もギルドに入会した。その為、18名もいるギルドになった。

Y G K「よく聞け！！！！シユウ様無き今、戦力は落ちた。だが、ギルドに入会する人が多くなったと言う事はそれだけの戦力を持つギルドになった。我ら神風が世界を支配する。戦争を仕掛ける」

こいつはY G K。シユウの後を継いで神風のギルド長になった男だ。和風の王冠を持つ王様で実力はかなり高い

その神風のメンバーの会議を盗み聞きしていたのは3人の少女。
一人はみさお。日下部みさお。ミートボールが大好きなボーイッシュな少女。

一人はみなみ。保険委員で沢山の剣を使う必殺技を習得している。
胸が無いのが難点だ

最後にパトリシア「マーティン。アメリカ人でかなりのオタク。腐女子である。」

この3人は神風に反逆する。
この3人はこのギルドなら犯罪などをしないだろうと思ったのであるのか

みなみ「貴方は許しません『五月雨剣』」

みなみは剣で攻撃を放つ
ファフはその攻撃をマジカルリングを使用して防御する

バケツ「宣戦布告してきたな。異世界人ども！『ドラゴンシュート』」

邪悪な黒き竜の力をみなみにぶつける

パトリシア「ワタシも守るんデス『マイティガード』」

パトリシアは青魔術の達人だ。ドラゴンシュートのダメージを最小限に減らす効果を持つ強力な魔法を唱えたのだ

ドラゴンシュートのダメージは半減したがみなみにはかなりのダメージのようだ。

ちなみにこの攻撃は本来全ての店の陳列棚の品全てを80%の確率で吹っ飛ばす強力な攻撃。

それから身を守るだけでも運がいいといえよう

みさお「巨大ミートボールを投げちゃったつ。アッー」

みさおは巨大なミートボールを神風の相手に投げ、それが爆発した。ミートボールに爆弾を仕掛けていたのだ。

Y G K「どこかに飛んでけ！」

Y G Kは強力な力でみさお、みなみ、パトリシアを遠くへ飛ばした。神風は他のギルドや他の一般市民を殺す計画を進めていた

第8章 ミットガル・ルクスの名

つかさ「ルクスさんの本名は何なんだろう」

ルクス「忘れた。ミットガル・ルクスの名の由来を教えてもいいけど」

みゆき「是非、教えて下さい」

ルクス「よからう、由来はミットガルと言う国からつけた」

そう、あまり意味がなかった

ルクス「この場所に住むものたちがデビルなら俺は哺乳類だ。すなわちお前らにはマーマムと名乗って置こう。」

マーマム、そういう名前で一番有名なキャラクターは????????あれね。チュンのあれね

つかさ「じゃあマーマムと呼ぶよ」

ルクス「そうしてくれ」

そうしてルクス、つかさ、みゆきが歩いていると5人の男が襲ってきた

白鯨「4人の雑魚よ、俺に力を貸せ、あの3人の賊を倒せ!」

神風兵「アリアリサッ」

ルクス「この服装、神風軍だな」

ルクスはこの世界を良く知っていた。ルクスは2回神風に入団した事がある。

その為、その服も着たことがあるのだ

シュウ「やめえ！。俺はシュウ、神風のメンバーはそんなことをしてはならん」

白鯨「やだね。シュウさんの偽者め。デフロボ5体よ、シュウもろとも殺せ」

5体のデフロボはそろそろとシュウやルクス、つかさを襲い掛かる

ルクス「必殺！ドラゴンスラッシュ」

ルクスの必殺技が出た。ドラゴンスラッシュ。伝説の必殺技。

真の力までは解放されていないがデフロボ2体ぐらいは簡単に破壊できる。

ハイディフの上官レベルのデフロボにはこの程度じゃ一撃は無理だが…

シュウ「やれやれ…神風も落ちぶれたものだな…斬月。お前がいきな」

シュウの伝説のデフロボ。斬月。攻撃力は神の如く高く、素早さやその他の能力値もとても高い伝説のデフロボの1つ。

白鯨のデフロボなど残り3体のデフロボを一気に両断していった
そして白鯨達を悪さしないようになってもらう為にシュウの説教が
一週間続いた

シュウ「ルクスさん。お前らの仲間になるよ」

ルクス「ありがとう」

シュウが仲間になった。だが、相手はまだまだ、大勢いた。

第9章 ハイデイフVS神風（前書き）

どんどん更新しようと思います。

第9章 ハイディフVS神風

ここではハイディフと神風が大突撃していた。
両方が

フローネル「ダダダッ」

ハイディフのリーダーフローネルはデフロボで銃器攻撃を放った。

青空王「クラウンクラウン！！！」

青空の館の王はフローネルに茨のロッドで攻撃を放つ。
茨が相手を包み、そして光線を放つ

バケツ「Kクラッシュ！！！」

バケツはマオに強力な衝撃波で攻撃

マオ「天地破壊、魔王降臨！！！！天地魔闘の構え！！！！！」

マオは魔王として、この世界の支配者として強力な一撃でバケツへ
攻撃

テラさん「マオを助けます。ドメインドラッグ！！！」

シンナーなどドラッグでバケツを薬物中毒にするつもりだ。
味方にも多少の影響があるかもしれないのが大きい難点だが

ポン酢「超必殺奥義・ポン酢醤油！！！！！」

ハイディフのポン酢は強力なポン酢醤油で神風に攻撃

戦いは続いた。

リョシュン「ウイング・クロスショット!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

巨大な風の竜巻を呼び出し、ハイディフへ攻撃

マオ「マホターン!!!!!!!!!!!!!!」

マホターンは一度だけ相手の魔法を跳ね返す魔法。マホカントーの退化した魔法だ。

マホカントーはドラクエの魔法に似ている名前だが、パクリではない。

マオ「神風、お前達は俺らに吸収される運命よ。ママガレートクラッシュ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

マオは神々シティに住む200人の国民から1800kcalずつのエネルギーを奪い、その力で強力な一撃を放つ。

世界の人々、その他の生物の元気を一つに集め、強力な衝撃波を放つ。

かめはめ波ではない。映画でよく出てくるような必殺技だ。

それがママガレートクラッシュ。マオの最終奥義

その一撃で神風は滅びた。

マオ「フローネル、我らハイディフが世界を支配し、滅ぼす!」

第10章 闇の中でみつけたもの

ルクス「神々シティはもう、助ける事は不可能かもしれない……
この世界を犯罪無しにする（救う）ために強力な武器を手に入れる」

伝説の剣エクスカリバー、邪悪な戦争で使われた魔剣ラグナロク、
最強の力を持つ斧スワンチカ、そして世界の中心に建つ巨大な塔・
天空の塔の祭壇で手に入ると言う天空の剣。

その4つを集め、その力で戦えばハイディフなど8つのギルド（そ
のうちの神風が滅んだのはルクスさえ知らない。）を倒せるのだ。

シュウ「それらはどこにあるのか」

ルクス「それらがある伝説の街に行く為の扉を作る。天使の血と悪
魔の涙が必要だ」

天使の血は天使を殺して手に入れた血。悪魔の涙は涙を流した悪魔
から奪う物。

両方ともルクスは手に入れていた。

つかさ「マーマム凄いつ」

ルクスはマーマムと呼ばれている。

ルクス「なんとしても1日でも早くマオを倒し、世界を平和にしな
ければいけない。」

* * *

マオ「ハイデイフは禁断の書を大量生産し、その禁断の力を得るんだ」

マオは伝説の禁断の力を得ようとし、禁断の書を作りまくる事にしていたのだ

世界を滅ぼす為に…

* * *

ルクス「お前らは土の洞窟でお宝を手に入れてきてっ！」

つかさ、シュウ、高良の三人はルクスから9つずつ氷の剣をかしてもらい、それをもって宝を手に入れに行く。

水の祠、風の神殿のボスも一瞬で倒し、火の祭壇さいだんへ行く

火の祭壇行く時はもつと強い武器が必要になったりするのである。

その為、強くなる

ルクス「今ではまだ、強くなれない。もつと強くなる為にダーマの神殿に行く」

ダーマの神殿。そこは人々が転職する為にある場所。

そこで転職すれば新たな力が得られる。

目的は転職ではない。一時的にジョブチェンジする為のアイテムを入手する為だ。

その力があれば、神々シティを救う事も可能かもしれないからだ。

第11章 百花繚乱の目的とその答え（前書き）

ポポロクロイスと言うよりも冒険、そして最終回へ……と進んでいく感じです。

第11章 百花繚乱の目的とその答え

ルンナ「エクさん、ジャムさん、フリーダムさん、マリナさん、レオさん、すとーんさん。俺達が会議を始める」

こいつはルンナ。百花繚乱のリーダーであり、トップクラスの実力を持つ。デフロボは魔力型で中の下ぐらい。このギルドではかなりの即戦力を誇る。

ルンナは戦争を終わりに告げる聖なる本を探している。

その目的は、他の悪い人達を滅ぼして、自分達が世界を支配し、他の者を奴隷にするからだ。

と言っわけで最終目的は他のギルドと類似しているといってもよい。

エク「ルンナ！会議か」

こいつはエク。ルンナほどの実力じゃないが、かなりの実力を誇り、大会で優勝を20回している。

優勝回数20回以上の人しかリーダーになれない世界だから、その実力はリーダーレベル。

このギルドではエクとルンナしかそれに達した人はいないのだ。

ジャム「な…なんだとー!!」

こいつはジャム。『なんだと』とか言うのが好きらしい。

その他の特徴は無い。侍だ。

フリーダム「サードウェイのデスノートの技術を手に入れました。そのデスノート製作をします」

フリーダムは地図を書く事が好き。デスノートの情報を得て、そのデスノートを作る事にした。

他のギルドを少しでも壊滅する為に、資金を入手する為に。

マリナ「シエンフルーレとか百花繚乱専用必殺技がほしいですね」

マリナはそういった。

シエンフルーレはマリナの大好きなニコニコ・ロビーンの必殺技である。

レオ「俺の最強最悪の強力なデフロボで人々を殺す」

ちなみにレオのデフロボは能力値オール18・アイテム装備せず、着せ替えせずの何も能力アップせずに放置している最弱のデフロボである。

もちろん、誰にも勝てるわけが無いのである。

今では資金を稼ぐのも無理になってきているので着せ替えとかで強く出来ない。

戦力は無とってよい

すとーん「子竜族でも最強の力を持つパプー族を使えばいいんじゃないのかな？」

パプー族とは子竜でも最強の力を持ち、涙を良く流せるし、魂の量も質も力も最強である。

その鱗をエネルギーにすれば最強の力を得られるのだ。

ルンナ「それでは我ら、百花繚乱は全国を支配する――」

百花繚乱のメンバーは散らばり、他のギルドにスパイ工作をする事にした。

百花繚乱の副ギルド長だった者のスパイの書を持っていたからだ。

第12章 らっきいの秘密兵器

らっきい「フフフ、私の新兵器を用意した。今のデフロボをリリース。あおやまごっしょう青山剛昌をアドバンス召喚！」

らっきいは全ての仲間で一氣にハイディフのメンバー2体を殺す計画をしていた。

殺す相手はフローネル&酔っパブの2体組だ。

らっきい探偵団のメンバーの住処の近くに通りがかったからだ。

らっきい「ゴウショービーム」

らっきいのデフロボは青き光線を放つ。山もを砕く威力を持つ

フローネル「マジカルリング10つよ、相手の攻撃を無に返せ！」

その効果で光線は消えた。だが、マジカルリングは砕け散った。

マジカル系は一人50個しかもてない。

それだけ強力な武器だからだ。

酔っパブ「ひろくん3才。マダンテDA!!」

酔っパブはマダンテを唱えた。

だが、神竜の腕輪50個を用意して攻撃を跳ね返した。

その威力で酔っパブのデフロボは砕け散った。

お店「デフロボ無しになったものは雑魚だっ!!!!」

お店は鉈を投げつけた。酔っパブの体に鉈が挟った。

こすけ「ワタシも貴方を倒す！」

こすけは酔っパブに3回連続攻撃を放つ。

フローネル「小ざかしい者ですね。mamガレットクラッシュ……！」

フローネルは気をためて、強力な攻撃を放った。

こすけ、お店はデフロボ、神竜の腕輪50個、マジカルリング50個、ミストスクリーン3つなどの最強の防御力で守ったが、mamガレットクラッシュの前ではこの程度は無力。
二人とも石となって死んだ。

らっきい「う、嘘ダッ……！！！！！！！！！！」

らっきいは酔っパブを色々な手を使って瀕死状態にした。

らっきい「フローネル、お前も殺す。お前に時限爆弾を用意してやった。発動まで10分したら爆発だ。酔っパブごと私を殺せば、見逃してやる……！！！！」

フローネル「いいだろう………mamガレットクラッシュ……！！！！！！！！！！」

らっきい、酔っパブはmamガレットクラッシュの威力により、死に絶えた。

フローネル「フッフ、マオさんと私しかmamガレットクラッシュは

習得できていない。だが、ハイディフの全メンバーが習得してやる
「！！！！！」

他のらっきいのメンバーは死ななかった。

第13章 城戸 丈と柊つかさと時々愛情！

柊つかさは城戸 丈と呼ばれる小学生に出会った。

柊つかさ「城戸 丈さん、ゴマちゃんを貸してください」

城戸 丈「いいよ！」

柊つかさはゴマモンを借りた。

柊つかさのおなかに優しさの紋章が宿った。

柊つかさ「ゴマモン、進化！！！」

進化しなかった。

ルクス「やはり、ダーマの神殿で転職の力を入れる。つかさはモンスターマスター（MM）に転職する。それしか進化させる方法はない」

そう、ダーマの神殿の力を借りるほかないのである。

* * *

みなみ「ダーマの神殿かあ」

パトリシア「この辺で仲間を集めようネー」

みさお「よっしゃー。決定！」

みさおはやはり、ミートボールを食べていた。

みさお「おみあげのアイス。どれも好きな物を一つ選びたまえ!!」

みなみ&パトリシア「ありがとう」

みさおはミートボール、他の二人はアイスを食べていた。

* * *

らっきいの残りのメンバー達はダーマの神殿へ向かっていた。
その目的は、ダーマの神殿を滅ぼす為だ。
らっきい探偵団のらっきいが残した情報であり、地下にあったものだ。

満腹なデブリーダー・とも、JOE、風まるのサジ、満丸みつまるの4名だけ
でギルドを成り立っているらしい。
らっきいとかは死んだからだ。

* * *

イルカ「持ち物は置いとけ！」

セラフィ「俺ら盗賊の力を見せてやる」

イルカは風の魔法を習得し、セラフィは天使の使いである。
そいつらも盗賊になってしまったのは世界の影響である。

ギルド加入をこんな時にもしてなかったのは大きい原因であった。

ルクス「……ドラゴンスラッシュ!!!」

ルクスは竜剣を放つ。ドラゴンスラッシュは竜剣の封印されていない姿であり、仮染めの強さしかない。

そんなに強くないが、その特殊能力（強制スタン、与えたダメージの分体力回復など）は強力である。

真の姿である、ドラゴンブレイクを使用するには竜の勇者になるしかない。

生まれたときから竜の勇者の者か竜の勇者に転職しなきゃその力は手に入らない。

ドラゴンブレイクの威力は唯一、マムガレットクラッシュに対抗しうる力である。

まっ、ドラゴンスラッシュでも並の盗賊程度一撃で殺せるのだ。

ルクスは相手達を一撃で葬り、ダーマへ向かう……！！

第14章 ダーマの神殿（前書き）

基本的にはこの小説は打ち切りです。

第14章 ダーマの神殿

ここはダーマの神殿、人々が転職を求めていく

ルクス「今日もニコニコ^^」

ルクスはニコニコしながら歩いている。

スパイダーマ「ダーマの神殿のスパイ！ スパイダーマツ！！！」

そこに現れたのはスパイのスパイダーマンである。
その实力は低い

つかさ「メラミィ！！！」

つかさの炎がスパイダーマを焦がす

高良「あなた、死んだほうがいいですよ……」

氷の柱がスパイダーマンを凍らせた。

そして氷の柱ごと、スパイダーマンは割れ、血だらけで死んだ。

ルクス「転職水晶もらうよ！！！」

ダーマの神殿から頂いた。

これでみんなが転職できる。

らっきいの残りのメンバー「させるかぁ——————」

ルクス「……ドラゴンブレイク!!!!!!!!!!」

らっき探偵団は完全に壊滅した。

第14章 ダーマの神殿（後書き）

この小説は打ち切りと言う形になりました。

あるサイトで荒らしに会い、その辛さ、その惨さ、その苦しさの元書いたこの小説ももう、内容として必要ないと判断しました。

このサイトは大好きなサイトであり、今でもしっかりとプレイしています。

このサイトは好きだから、もう、このサイトでの悪ばかりのひどい小説は終わらせます。

そして、このサイトに関する新しい小説を書く事になりました。

今まで支えてくれた人、応援していた人。ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8516d/>

ポポロクロイス戦記 悪の心を持つ者

2010年10月13日20時24分発行